

[年度] 平成24年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 大莢エンドウの夏まき年内どり栽培における有望品種

[要約] 大莢エンドウの夏まき年内どり栽培において、‘ニムラ大莢オランダ’が早生で多収であり、莢品質も従来の‘オランダエンドウ’と同等で有望である。この品種は、8月上旬播種で、収量が多くなる。

[キーワード] 大莢エンドウ、夏まき年内どり、ニムラ大莢オランダ

[担当機関名] 暖地園芸センター園芸部

[連絡先] 電話 0738-23-4005

[部会名] 野菜・花き

[分類] 研究

[背景・ねらい]

本県で生産されている大莢エンドウ‘オランダエンドウ’は、夏まき年内どり栽培では、着花節位が高く、収穫始めが遅いため、降霜が早い地域では収量が少ない。そこで、大莢エンドウの中から早生で多収となる品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

1. 8月下旬播種では、多くの品種で着花節位が20節以上となるが（データ略）、‘ニムラ大莢オランダ’は約11節で着花し、収量が他の品種より多い（図1）。
2. 莢の形状は、‘オランダエンドウ’と比べて、‘シルキー大莢’では小さく、‘仏国大莢’では莢長が、‘かわな大莢 PMR’では莢幅がやや短い。その他の品種は、‘オランダエンドウ’とほぼ同等である（データ略）。
3. ‘ニムラ大莢オランダ’の着花節位は、播種時期によらず約11節で、播種後30～40日から開花が始まる。一方、‘オランダエンドウ’では、播種時期が遅いほど着花節位は低くなり、8月上旬播種では約31節、9月上旬播種では約23節で、開花始めまで60～70日を要する（表1）。
4. ‘ニムラ大莢オランダ’は、播種時期が早いほど総収量が多く、8月上旬播種では、10月上旬に収穫が始まり、約1,000kg/10a収穫できる。一方、‘オランダエンドウ’では、8月中旬播種で収量が多く、収穫始めが11月上旬で、総収量は約800kg/10aとなる（図2）。
5. ‘ニムラ大莢オランダ’のL莢率は、収穫初期3節程度まで20～50%と低いですが、その後は50～90%で、‘オランダエンドウ’とほぼ同等となる（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 栽培地域の気象条件により、開花や収穫始めの時期および収量等は異なる。
2. 降霜時期により総収量は変動する。
3. ‘ニムラ大莢オランダ’は、種苗メーカーが種子の販売を終了しており、種子の増殖が必要である。

[具体的データ]

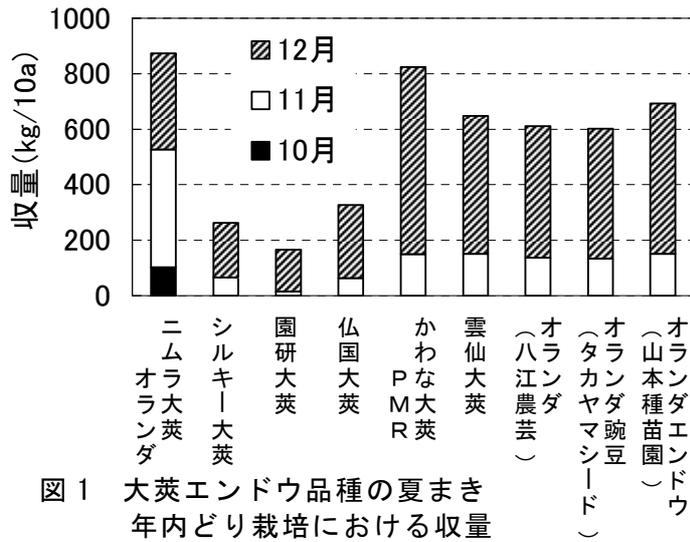


図1 大莢エンドウ品種の夏まき年内どり栽培における収量

注) 2011年8月26日播種、うね幅150cm、株間20cm、白黒ダブルマルチ被覆、1穴4粒播種、側枝放任、基肥 N-10kg/10a (F入り豆元肥)、追肥 N-5kg/10a (千代田化成) × 2回 (開花始め、収穫盛期) 莢長5cm以上、曲がりなしの莢 (L, M) の収量、2011年12月18日に霜害

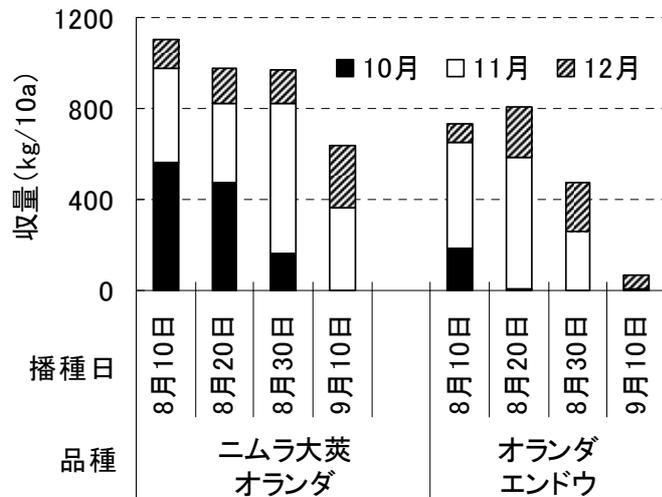


図2 大莢エンドウの播種時期と収量

注) 2012年播種、主枝1本仕立て、その他の耕種概要等は、図1と同様 2012年12月20日に霜害

表1 大莢エンドウ品種の夏まき年内どり栽培における播種時期と第1花房の着生節位および開花日

品種	播種日 (月/日)	第1花房 着生節位 <sup>z</sup> (節)	第1花 開花日 (月/日)
ニムラ大莢 オランダ	8/10	11.7	9/13
	8/20	13.0	10/1
	8/30	11.6	10/6
オランダ エンドウ	9/10	11.0	10/19
	8/10	30.8	10/15
	8/20	27.6	10/22
オランダ エンドウ	8/30	26.1	11/1
	9/10	23.1	11/18

2012年播種、主枝1本仕立て、その他の耕種概要は、図1と同様

<sup>z</sup> 地中の不完全葉を含む

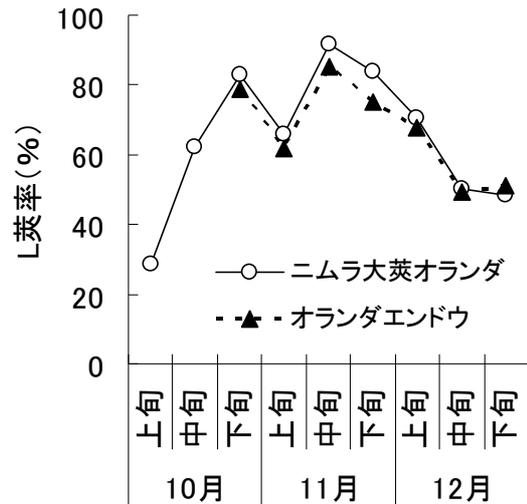


図3 大莢エンドウの収穫時期別莢品質

注) 2012年8月10日播種  
L 莢率 = L 莢重量 / 全収量 × 100  
L 莢は、莢長10cm以上かつ曲がりなし  
全収量は、規格外の莢も含む

[その他]

研究課題名：業務用野菜産地化推進（業務用野菜の省力、低コスト安定多収生産技術開発）

予算区分：県費

研究期間：平成23～24年度

研究担当者：川西孝秀・松本比呂起・楠 茂樹

発表論文等：なし

HP掲載の可否：可